

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	01 文学部	責任者	荒井明夫
基準4	教育課程・学習成果	総合自己評価	A
★基準4の総合自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> A評価が多いことは高く評価できると思えるが、B評価の項目をみると、学生の学び・授業に関して、学生の主体的学びを組織できていない点があると思われる。そのため、総合的にはB評価とした。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
評価の視点1 【基礎要件●】	方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		A
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		A
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
評価の視点1 【基礎要件●】	方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。		A
評価の視点2 【基礎要件●】	方針は、学位授与方針に整合している。		A
評価の視点3※ 【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		A
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。		
評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス		A
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー		A
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ		A
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9,10		A
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス		A
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。		A
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き		A
評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ		A

	*各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	
評価の視点1 1	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
評価の視点1 ※ 【基礎要件●】	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9	A
評価の視点2 ※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	A
評価の視点3 ※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	A
評価の視点4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点6 ※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む））。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入)	A
評価の視点7 ※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点8	1 授業当たりの適切な学生数を設定し、運用している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。 *各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1 ※ 【基礎要件●】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPA による成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	A
評価の視点2 ※ 【基礎要件●】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12	A
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1 ※ 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。	A

	※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 *学科の状況（根拠資料）を総合的に判断して自己評価してください。	
評価の視点2※ 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 《学修成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 *学科の状況（根拠資料）を総合的に判断して自己評価してください。	B
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023年度自己点検・評価について	B
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っているか。	A
★項目(7)4-7①改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
《回答》 文学部の6学科の内、改善向上のためのFDを実施した学科が2学科であるが、学部全体では無い。	《根拠資料》 01-C4-1:	

II 現状を踏まえ、学部全体の長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	文学部では、毎年FD・特別講義を実施し、「文化・文学」を中心としながらも、それに留まらない広い視野からFD／特別講義を開催してきた。2022年度は、「市立大学における改革の現状と課題」に対する外部講師を招聘しての講演をZOOMで聞いた。特別講義では、対面で実施した。
-------	---

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった学科の新たな問題点や課題について、学部としてどう捉えるか今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	今回の自己点検の中で、DP中にある「3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」の中での、学生主体の授業の創造がまだ弱い。講義中心のスタイルから学生の主体的学びを組織する方向性へと転換に向けてさらに努力することが必要である。
--------	--

IV【改善計画（事業計画）】

カテ ゴ リ	計 画 番 号	B票No. or 開始年 度	改善計画 (アクション プラン)	内容(改善を要すると判断した 根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2018-4 II-1	『文学部へようこそ2018』の改訂	文学部としての統一性をあらわす特徴も加味しつつ、それぞれの学科の個性が輝く総合学部として『文学部へようこそ2018』は文学部学生を結びつ	学生からの要望をふまえ内容をよりわかりやすく興味あるものに変えていく。	A(100%)：『文学部へようこそ改訂版』配布 B(80%)： C(50%)：	2022 末結 果：A 2023：A

				けた。このような工夫をより実効性の高いものにしていくために学生のニーズに対応する改訂を図る。		D(20%) :	
①	3	2023 (2016 ～継続)	(文学部) 新生サブテキスト制作	<p>新生向けサブテキストの制作『文学部へようこそ 2023』</p> <p>大東文化大学の文学部として、</p> <p>◆文学とは何か？</p> <p>◆これだけは知っておきたい大東文学</p> <p>◆文学部で学ぶために</p> <p>という項目で、6学科の紹介と新生に対する共通項目で内容を構成している。</p>	<p>初年次教育の強化・充実を目標とする。</p> <p>1 文学部で学ぶことの意義</p> <p>2 文学部の特性理解</p> <p>3 ディプロマ・ポリシーの理解と醸成</p>	<p>A(100%) : 大学ホームページへのデータ掲載</p> <p>B(80%) : データ制作</p> <p>C(50%) : 計画</p> <p>D(20%) : 検討</p>	2023年度 : ABCD
①	4	2023 (2021 ～継続)	(文学部) 文学部特別講義	(文学部) 文学部特別講義	<p>知見を深め、学修意欲の向上を目指す</p> <p>1 ディプロマ・ポリシーの理解と醸成</p> <p>2 「多文化共生」理解</p>	<p>A(100%) : 実施</p> <p>B(80%) : 周知</p> <p>C(50%) : 企画</p> <p>D(20%) : 検討</p>	2023年度 : ABCD

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>文学部としての統一的な評価指標測定方法の開発は困難であるとの認識が示されているが、学部DPが存在することも確かなことから、学部のDPに明示されている学修成果を測定するための指標及びその活用指針を設けることは必要かと思われるので、継続して検討されたい。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>文学部において教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性が図られていることはカリキュラムツリー、カリキュラムマップ等の根拠資料及びそれにもとづく点検・評価シート等から確認できる。</p> <p>学生の学習を活性化し、効果的な教育を行うための措置として、詳細なガイダンス資料を作り、きめ細かな履修指導を行っている。また、シラバスチェックを行い、新生サブテキスト『文学部へようこそ』を制作・改訂している等などの点は大いに評価できる。</p> <p>総合評価として、学生の学び・授業に関して、学生の主体的学びを組織できていない点があると思われるとあり、問題点・課題としても、今回の自己点検の中で、DP中にある「3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」の中で、「学生主体の授業の創造がまだ弱い。講義中心のスタイルから学生の主体的学びを組織する方向性へと転換に向けてさらに努力することが必要である」とされているが、具体的な改善に向けた取り組みなどが示されていない。また、学位授与方針に示された学生の学習成果の測定については、全学的な学修成果可視化の実現のために、DP（学位授与方針）・AG（到達目標）の修得度をグラフ化する試みがなされた。先に教育学科が水先案内的な役割を果たし、それが今後全学に適応されていくための先駆けとなったことの意義は大きい。その適応の過程で、文学部の取り組みが一層活用されることが期待される。</p> <p>また、Ⅲ問題点・課題の欄に「学生主体の授業の創造がまだ弱い。」として講義中心のスタイルからの転換を課題に挙げられている。このことに関しても、DPに示す資質や能力の習得度データに加え、学習成果の把握を行うための学生の行動調査や授業アンケートの満足度を評価指標とする間接評価からも根拠となるデータが得られると思うので、今後の取り組みに期待したい。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが</p>

	概ね適切である。 (評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。